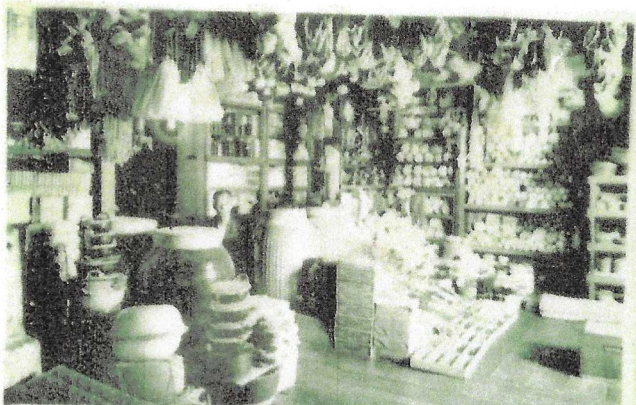




昭和22年(1947年)に三代目:三井が家業を継ぎました。新聞販売は塩川町内4地区(塩川、堂島、姥堂、駒形)のほか、隣接する湯川村、河東町地域への直接配達のほか、現在の北塩原村となった桧原、早稲沢、大塩へ郵送配達をしており、今でも「菅井の新聞屋」と言われることがあります。新聞以外の小売販売も忙しかったことから、祖父 三井が長期入院をしたことを契機に、昭和33年(1958年)に新聞販売を辞め、小売雑貨販売業に専念することとなりました。

平成5年(1993年)に祖父が亡くなり、祖母が四代目として店を続けてまいりました。時代が移り変わり、様々な物が、誰でも、どこでも買える消費社会となり、祖父が亡くなって以降は、店を開けているだけの状態が続いてきました。

そんな中、山都町出身の母が、趣味で蕎麦を打つようになりました。その姿を見て、「私も蕎麦を打ってみたい」と思うようになり、母の蕎麦打ちを見よう見まねで始めました。

「この店を活用し、地域の方に喜んでいただける働きがしたい」という想いが生まれ、令和元年(2019年)に蕎麦製麺業を始めました。

この店にお越しくださる方が「やすらぎ」を感じ、人と人がつながっている、そんな場所になっていければと願っています。

菅井百貨店の歩みと想い

本日はご来店いただき、ありがとうございます。

塩川で商売を始め、私で五代目となります。

初代:菅井武治(たけじ)が26歳で漆器・雑貨とあわせて、新聞販売も取扱う菅井商店を開店したことから始まりました。

塩川町史に「塩川が塩川町となった明治42年(1909年)に『菅井新聞店開業する』」との記述がありますので、今年で創業113年になります。



その後、昭和14年(1939年)に二代目:清四郎(せいしろう)が家業を継ぎました。取扱ってきた品目は、漆器、瀬戸物、お茶のほか、時計、蓄音機、レコード、美術品、貴金属などなど、「百貨店」の看板を掲げるに至った明治・大正・昭和にわたる万屋(よろずや)でした。聴くところによると、清四郎は「大の蕎麦好きだった」ようで、今こうして「蕎麦や」を開店するのも、何かの縁があるように感じています。



先代が様々な物を取扱うことを通して、地域の方とつながらせていただいたように、私も蕎麦を通して、地域の方と「細く長く」つながらせていただけるよう、店づくりに努めてまいります。

令和4年3月吉日 菅井百貨店店主 菅井一孝

手打ち生そば

前日までの予約注文でお受けいたします

★10人前
3,800円

おすすめ

★5人前
1,950円

★3人前
1,200円

※ 箱再利用(箱ご持参)で値引

蕎麦や 菅井百貨店

喜多方市塩川町字新丁1820-3
TEL 0241-27-2018

製麺・飲食予約受付時間
14時～17時

飲食営業時間
11時30分～14時

<アクセス>

